

2024-25年度RI会長

ステファニーA.アーチック

第2640地区ガバナー：野村 壮吾

田辺東ロータリークラブ 創立：昭和49年5月15日

会長：渡口 眞二 幹事：森本 修至



例会場/事務所：田辺市下屋敷町81-10

きのくに信用金庫田辺支店3F

Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008

http://tanabe-east-rc.com/

E-mail info@tanabe-east-rc.com 例会：水曜日12:30～

## ○会長報告

会長 渡口 眞二



- 本日のお客様は、浅里 耕一郎（あさり こういちろう）様です。

【浅里様は、昭和45年～平成18年まで高校社会科教諭、現在は、田辺市文化財審議委員会委員長、紀南噴火財研究会副会長、紀南・地名と風土研究会会長を務められています。】後ほど、どうぞよろしくお願いたします。

- 田辺ロータリークラブ、榎本長治様メーキャップにお越しいただいております。ありがとうございます。

- 例会終了後、非公式理事会を開催致しますので、次期理事・役員の方はご出席くださいますよう、よろしくお願いたします。

- みずほ証券株式会社 和歌山支店

支店長の 志賀 功樹（しが こうき）様

【和歌山南RC所属】真下君後任の課長、藤田 直也（ふじた なおや）様にお越し頂いております。ようこそお越しくださいました。



- 2月5日定例理事会の報告を致します。

◎例会のお弁当について…宝来寿司さん、283さん、きょう屋さん等、この順番で承認。

◎2月5日（水）真下君の送別会をメーキャップにすることについて…承認。

◎2月17日（月）の商工会議所、HAPPYプロジェクト～結～実行委員会をメーキャップにすることについて…承認。（延期の為、別日開催）

◎50周年記念誌について…冊数・予算、承認。

- 本日のお弁当は「283」さんです。ご賞味ください。

## ○幹事報告

幹事 森本 修至



中嶋伸和君、西谷貞彦君、野村憲司君、大野翼君、佐田一三君、坂本正人君、武田静也君、竹中悟君、玉置佳範君、渡口眞二君、山本亘君

- 回覧

◎週報「那智勝浦RC」

◎野村ガバナー事務所より

「ロータリー財団補助金セミナー開催のご案内」

「2025-2026年度クラブ行事届出のお願い」

「全国ローターアクト代表者会議並びに第37回全国

ローターアクト研修会のご案内」

「ローターアクト地区献血のご案内」

◎一般社団法人ロータリーの友事務所

「2025-2026年度版 ロータリー手帳お買い上げのお願い」



- 例会日時変更

◎那智勝浦RC 3月20日（木）→休会

3月27日（木）→変更 12：30～

グリーンピア南紀跡地「花見例会」

◎和歌山北RC 3月31日（月）→休会

3月17日（月）→変更 18：30～20：30

夜間例会「四季の味ちひろ」

- メークアップ

◎2月5日（水）「真下京君送別会」

橋本隆君、平林圭介君、本田耕二君、岩崎泰人君、片井貢君、畔田実君、真下京君、森本修至君、

## ○出席報告

会員数 31 名 義務免除 2 名  
本日の欠席者 5 名  
本日の出席率 82.76 %

## ○本日の唱歌

「北の旅人」

唱歌 佐田 一三 君



## ○ピジター ~ようこそお越しくださいました~

田辺ロータリークラブ

榎本 長治 様



和歌山南ロータリークラブ

志賀 功樹 様



## ○本日のお客様

浅里 耕一郎 様

昭和45年～平成18年まで高校社会科教諭、  
現在は、田辺市文化財審議委員会委員長、  
紀南噴火財研究会副会長、  
紀南・地名と風土研究会会長



## ○にこにこ報告 (敬称略)

～浅里耕一郎 様をお迎えして～

榎本長治 様  
志賀功樹 様  
藤田直也 様



泉房次郎、上原俊宏、片井貢、畔田実  
榎木正和、佐田一三、武田静也、竹中悟  
竹村英一、谷本司、玉置佳範、中嶋伸和  
西谷貞彦、野村憲司、橋本隆、平林圭介  
本田耕二、森本修至、山本亘、渡口眞二

◇ “梅の香りが迎えてくれる南方邸” が今満開です。

好きな一句：“人知れず耐えたる梅の白さかな”

吉田和枝

結婚記念日

本人誕生日

ハッピーバースデー to me

これからもよろしくお願いします！笑

山本亘

坂本雄介

大野翼

◇大好きな、田辺東ロータリークラブのメンバーの皆様、  
3年10ヶ月大変お世話になりました。

皆様のおかげで有意義な田辺生活を送る事ができました。  
名残惜しいですが、皆様のご活躍と田辺東ロータリー  
の発展を祈念しております。

また、いつかお会いできる事を楽しみにしております。

真下京

## ○本日のプログラム

浅里 耕一郎

田辺城下の地名を歩く



「牟婁の津」から「田辺の湊へ」

田辺地名が膨張し続けている。平成の大合併によって  
田辺市域は紀伊水道から奈良県境まで広がり、近畿一広  
い市となった。しかし、本来の田辺は、「牟婁の津」と  
呼ばれ、牟婁の江（田辺湾）の小さな港とその周辺の  
集落を指していた。『日本書紀』にもその名が登場して

いるというから奈良時代にはすでに「牟婁の津」と呼  
ばれていたことになる。しかし平安末期には「田辺の湊」  
と呼ばれるようになり、田辺という地名が登場する。  
大化の改新以前に朝廷や豪族の私有民を「部(べ)の民  
(たみ)」と云ったが、その一つに「田(た)の部(べ)」  
(田を耕作する人々)があり、「田辺」地名も「たのべ」  
が「たなべ」になったという説のほか、単に大きな田  
圃の辺(あたり)に住む人々に由来する説などがある。



四つのテスト：1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深めるか4. みんなのためになるかどうか

## ○本日のプログラム

古い城下町は「上野山」から

平安中期に入り熊野詣でが盛んになると、田辺は交通の要地として発達する。海辺の下ってきた紀路がここから山に入る中辺路の分岐点にあたるため会津川川口付近は、熊野詣で一行の宿所となった。会津川右岸の上野山周辺には「御所谷」という地名が残されており、行幸時の仮の宮居が置かれたことが想像できる。

室町時代に入り、貴族による熊野詣でが衰えるが、ここに砦を築いたのが湯河氏であった。その後、湯河氏は畠山氏に背いたので山本掃部広信に攻められ、和睦の後、山本氏が城代となっている。しかし、その山本氏も秀吉の紀州攻めによって追われ、代わって上の山城の主となるのが秀吉の部下の杉若越後守氏宗である。杉若氏は上の山城を修築し、城下の経営に力を注いでいるが、当時の城下には「公文町」「寺町」「瓦町」「尾ノ崎」「寺屋敷」などの名が見える。

田辺城下の基礎を築いた浅野左衛門佐

しかし、その杉若氏もまた、慶長5年（1600）関ヶ原の戦いで追われ、浅野左衛門佐（すけ）にとってかわられる。浅野氏は小高い上野山城からより交通の便利な田辺川川口（右岸）（洲崎）に城の移転を計画し、慶長10年に完成させている。しかし、築城後すぐに大浪によって州崎城が破壊され、やむなく翌年、対岸の湊村に新しい城を建築した。翌慶長11年のことである。城の移転は城だけでなく同時に、町替えも行われ、上野山城下がそのまま会津川左岸に移された。このため上野山城下は「古町」と呼ばれるようになり今日に及んでいる。地形的に制約された上野山城下に比べ、湊村には広い平地が開けていた。湊村への移転によって田辺の城下町は大きく発展することになる。元和元年（1615）浅野氏に代わって安藤帯刀直次が入城し、湊村城は田辺城と呼ばれるようになり、二人の力で田辺城下が整えられていった。

防衛都市「田辺城下」

江戸時代には太平の世の中になったと云え、まだまだ戦国時代のムードが残っていた。田辺城下建設にも敵の侵入から街をどう守るかというのが大きな課題であった。城の中心本丸はと云われ、今でも付近は城中と呼ばれている。本丸を守るためお城の周りにはお堀が掘られた。寛永年間（1626～32）年の田辺城下絵図を見ると本丸を中心に東と北に内堀、外張りが描かれており、西は会津川、南は牟婁の江（田辺湾）が天然の防衛機能を果たしてくれていた。昭和5年発行の『田辺町誌』には中屋敷の通称地名に「堀の丁」という地名が残されている。

内堀、の外側は丸の内と呼ばれ、重臣の武家屋敷が並び、外堀の外には与力、足軽どの下級武士屋敷が置かれた。

田辺城下も城主の屋敷を家臣が何十にも取り囲む形で屋敷町が配置されていたのである。

二つ目の防衛機能は寺院の移転である。江戸時代の初め、会津大橋の西詰や田辺の城下の東入り口に当たる海蔵寺付近へ寺院を移転させたが、外から入ってくる不審人物の監視や戦の折には最初の防衛線とする狙いがあった。

三つめは鍵型T字路の建設と松の植樹である。鍵型T字路の建設は敵の侵入に備えて前方の未投資を悪くし、一気に攻め込まれないように建設されたものである。田辺城下には至る所にT字路を作っているが今日、交通の障害となっているが、今猶、古い城下町の面影を伝えてくれている。このほか、浅野氏は稲荷山と新熊野神社（闘鶏神社）権現前に松苗千本を植えた。当時闘鶏神社前は「権現松原」と呼ばれていた。風光明媚な城下町を想像できるが、実はこの松林は敵の侵入時に伐り倒してバリケードにする狙いがあった。

経済的機能を担った町人街

一般に城下町を作る場合、武家屋敷は高台の災害の少ない場所に、町人街は低地に作られることが多いが、田辺の場合も町人街は城の北側、田辺河沿いの低地に作られた。しかし、単に条件の悪い土地に追いやられたというだけでなく、田辺河口という交通の要地に作られたことが、商品集散地として商業発展の基礎となった。加えて、熊野街道はこれまで上野山付近から田辺河沿いを登り、中辺路に向かっていたが、これを街中に入れたことが、熊野街道の宿場町として大きく発展させることになった。当時の町名には、本町、紺屋町、片町、袋町、長町、新町などの名前が見える。本町には大庄屋、田所家の屋敷が置かれ、袋町には魚屋、長町には旅籠屋が多かった。明治維新後、武家屋敷は上屋敷、中屋敷、下屋敷と、長町の西部は栄町、南新町の一部は今福町と改名され今日に及んでいる。



## ○今日のお弁当

本日のお弁当は

「283」様の

お弁当でした。

美味しくいただきました。



## ○次回プログラム

◎2月26日(水) 休会

◎3月 5日(水) 内卓予定

◎3月12日(水) 休会

◎3月19日(水) 外卓予定

◎3月26日(水) 休会

